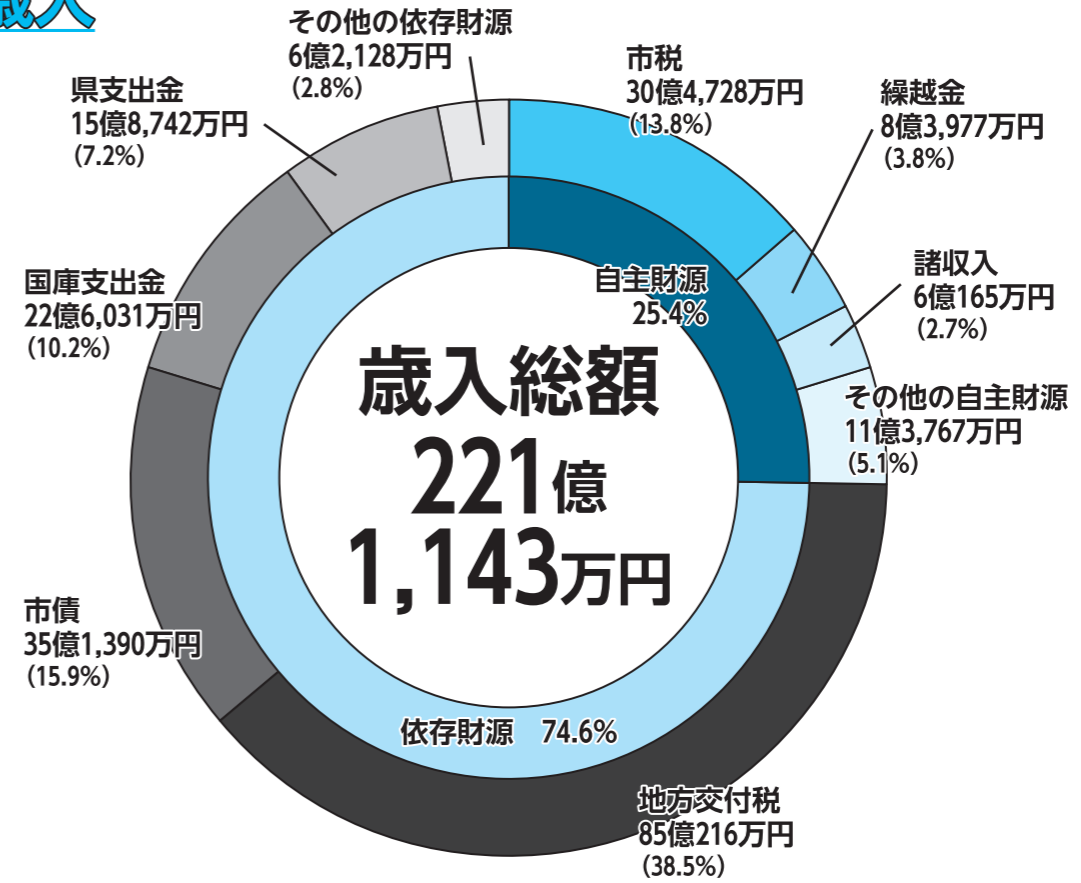


9月11日から10月2日まで開かれた市議会第3回定例会で、平成26年度の一般会計など9会計の決算が認定されました。ここでは、決算の内容を財政の健全度を示す各種指標と併せて紹介します(金額は、1万円未満を四捨五入しています)。

歳入



自主財源…市が自主的に収入できる財源 依存財源…国や県から交付される財源

※各数値は、1万円未満を四捨五入しているため、合計金額が一致しない場合があります。

平成26年度特別会計・企業会計の決算状況

会計名	収入額	支出額
国民健康保険(事業勘定)	37億3,042万円	35億1,743万円
国民健康保険(診療施設勘定)	2億9,837万円	2億7,623万円
後期高齢者医療	2億5,995万円	2億5,740万円
公共下水道事業	4億9,427万円	4億6,102万円
農業集落排水事業	6億9,271万円	6億7,704万円
浄化槽事業	6,152万円	5,610万円
水道事業	収益的収支	6億3,802万円
	資本的収支	2億2,749万円
西根病院事業	収益的収支	7億9,756万円
	資本的収支	1億 907万円

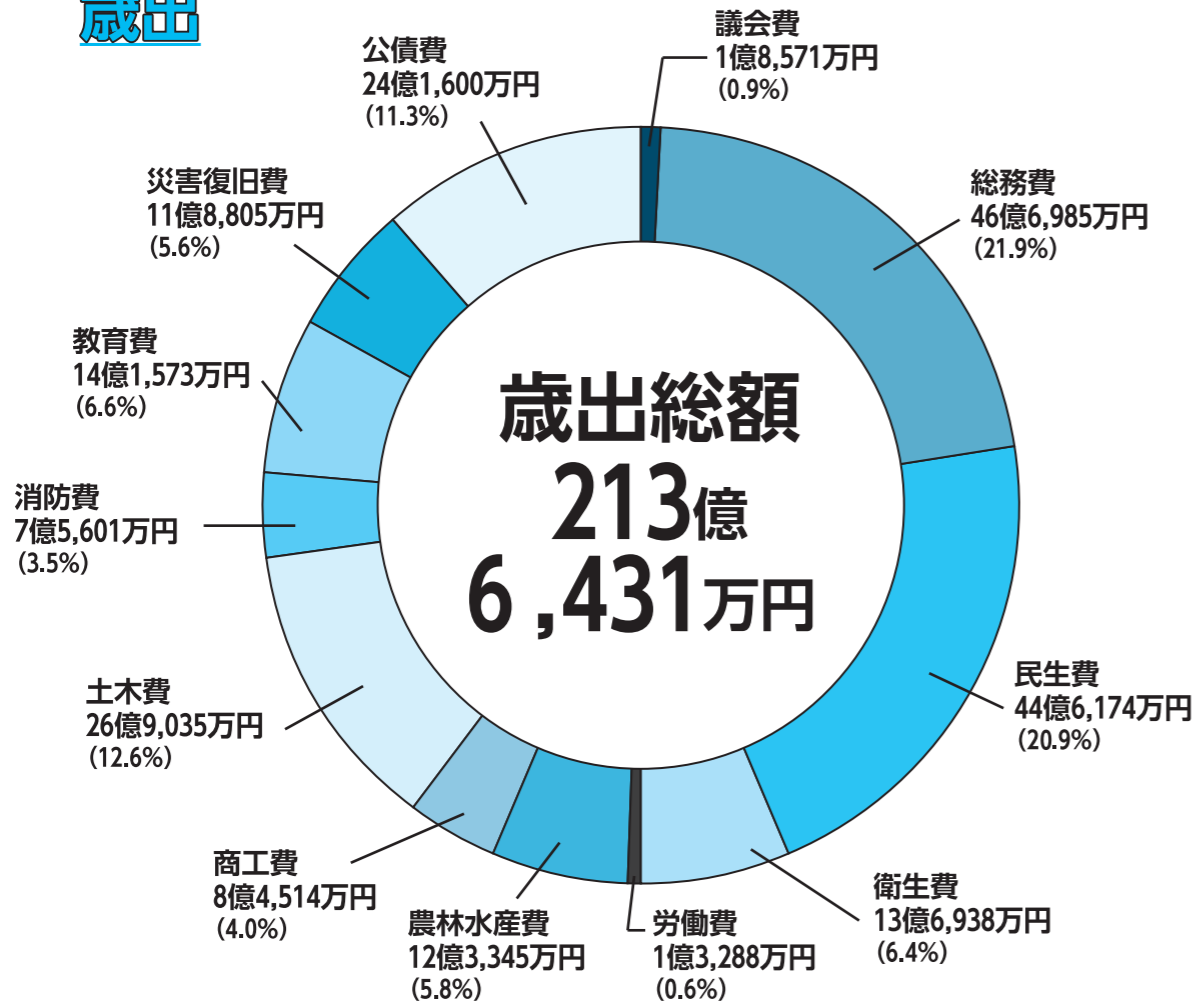
歳入 前年度に比べ自主財源比率が4.9ポイントの上昇

26年度の一般会計の歳入(収入)は、221億1143万円でした。一番多くの割合を占めるのは、地方交付税の85億216万円(38.5%)でしたが、前年度より2億1785万円(2.5ポイント)少なくなっています。続いて多いのが、市債の35億1390万円(15.9%)、前年度比14.4%増で、3番目が市税の30億4728万円(13.8%)、前年度比0.7%増でした。

歳出 新庁舎建設や北森駅の移設などで総務費が増

一般会計の歳出(支出)は、213億6431万円でした。

歳出



財政の健全度を表す指標

- ①実質赤字比率** 一般会計など税金が主な収入源の会計収支が、標準財政規模(※)に占める赤字の割合。本市は実質黒字なので、該当はありません。
 - ②連結実質赤字比率** 企業会計を含む全会計の赤字額が、標準財政規模に占める割合。本市は実質赤字や資金不足の会計はありません。
 - ③実質公債費比率** 地方債の償還金を標準財政規模で割ったもの。本市は前年度より1.2ポイント少ない10.3%です。
 - ④将来負担比率** 現在抱えている負債の大きさを標準財政規模で割ったもの。本市は、前年度より2.6ポイント低い7.2%です。
 - ⑤資金不足比率** 下水道など公営企業の資金不足を事業の規模と比較したもの。本市は該当ありません。
- ※標準財政規模とは
市が、標準的な状態で通常収入されると見込まれる経常的一般財源の規模を示すものです。標準税収入などに普通交付税を加算した額。財政の指標となる①から⑤までの比率を計算するための分母となる重要な数字です。26年度の市の標準財政規模は、121億3296万円です。

歳出で一番多くの割合を占めるのが、総務費の46億6985万円(21.9%)です。これは、新庁舎建設やJR花輪線北森駅移設があったため、例年より多い割合を占めました。次に多いのが、民生費の44億6174万円(20.9%)で、子育て支援、障がい者や高齢者の福祉サービス、生活保護などのために使われました。前年度に比べ、大きく増加したのが土木費の26億9035万円(12.6%)、前年度比34.8%増で、これは、新庁舎と北森駅をつなぐ自由通路の建設などの実施によるもので

す。また、歳入、歳出ともに合併後最高額となりました。グラフに記載はありませんが、財政の弾力性を示す経常収支比率は、前年度より0.3ポイント上昇し、85.8%、財政力指数は、0.30でした。また、地方債残高は、前年度から12億6280万円増え、193億2590万円となりました。市では、より一層の経費削減などに努め、今後も効率的な行政運営を目指していきます。

(※)内線1204まで。